

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390500035		
法人名	ライフサポート安心企業組合		
事業所名	グループホーム みたけ		
所在地	岡山県笠岡市西大島3253番地		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JirvosyoCd=3390500035-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

注意:みただけの自己評価は全職員個々に記入したものを一つに集計しています(今回は8名が評価)。そのため、項目によっては複数の記載があったり、内容の方向性が真逆になっていることもあります。それは職員個々の意見を尊重し記載したためです。重複したり、似かよった意見はひとつにまとめています。
 ・三食手作りの食事を提供している。・家事療法&生活リハビリ(洗濯、掃除、調理、盛付け、食器洗い、おしぼり作り、etc...)などを行って頂き、認知症進行とADL低下の予防に努めている。・利用者様と、散歩、外出、2日に1度の買物を積極的に行っている。・地域のイベントに積極的に参加し、地域の方々との触れ合いを大切にしている。・みただけ自家製のヨーグルトを朝昼2回提供し、便秘気味の方にはみただけ自家製ブルーベリージャムを追加で提供している。・3カ月に1度ご家族にスタッフより手紙をお出ししている。・学生ボランティアを積極的に受け入れている。・ウッドデッキのペランダでお茶を楽しむ時間を提供している。・年に数回、隣接する小規模多機能事業所と歌や踊りなどの催事を通して交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の特に優れた点は、外出支援と完全手作りの食事である。外出支援は、日々の散歩やスーパーへの買出し、笠岡地区の様々なイベントへの参加や四季折々の花見等、充実している。食事は「完全手作り」をモットーにしており、利用者がスーパーで食材を吟味するところから始まる。主食は理事長が自家栽培し天日干した良質の米を10kg単位で精米しているので、いつも新鮮で甘みがあり美味しい。地域交流も盛んで、ケーブルテレビから情報を収集し、地域のイベントや祭りに参加している。小中学校の運動会やオープンスクールにも見学に行き、中学生のいきいきチャレンジや夏のボランティアも受け入れている。いきいきチャレンジ体験に10年前から参加していた中学生が、去年から職員として勤め始めた。日々行われる地域との交流が実を結んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所に掲示されており、理念を共有して実践できるように心がけている。	6項目ある理念の中で特に「その人らしく生きること」の支援を重視している。さらに、食事・洗濯・掃除等の家事を手伝った日々の記録から、「可能な限り自立、自律への援助を行う」という理念の実施が見て取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近くの小・中学校のオープンスクールや運動会へ参加をしている。・地域のサロンに参加し地域とのつながりを持つようにしている。・散歩では近所の方と挨拶や会話を交わし、コミュニケーションをとっている。	施設長が、大島いきいきサロンの立上げ時に相談役として加わっていた。利用者と職員は、月に1度はサロンで催しを楽しみ食事をして帰る。散歩の途中で犬と出会えば近寄って可愛がり、近所の方からは畑で取れた野菜をもらう等、親しみのある交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の人々から相談があれば、いつでも対応できるように準備は出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で出た意見は真摯に受け止め、グループホーム(以下、「GH」と記載する)の運営に取り組んでいる。	地元出身である理事長の人脈で、民生委員・老人会長・自治会長等が参加してくれている。毎回趣向を凝らし、イベントや勉強会を兼ねた会議を実施している。前々回は10周年記念イベントと同じ日に実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市が開催する研修会等へ積極的に参加している。 ・運営推進会議を通してGHの実情を伝えている。	運営推進会議で勉強会を実施する際は、地域包括支援センターが段取りをつけてくれる。小規模のケアマネジャーがケアマネ協会の役員をしているので、行政の方と交流する機会も多く、10周年記念イベントも宣伝してくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての知識は会議などで話し合い、スタッフ共通の認識を深め、ケアに取り組んでいる。 ・夜間は防犯のため施錠している。	入居初期に帰宅願望のある利用者が多いが、「帰りたい」と発すれば、「一緒に帰りましょう」と外へ出掛け、得心できるまで職員が寄り添い拘束はしない。また、言葉で「立ち上がらないで」や「駄目」のスピーチロックを言わないように気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・会議などで話し合い、虐待防止の知識を高め、共通意識を持って業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度の研修に以前参加した。・個々が勉強し、理解を深める努力をしている。・利用者様に制度を利用されている方がいらっしゃるのので、勉強中。・制度は理解できない部分が多いので、これから研修に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結、解約又は改定等の際は、十分に説明を行い、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議へご家族に参加して頂き、意見を伺っている。	入居時に確認した家族の希望は、全職員に周知し対応に努めている。面会時には日々の写真を見せられ、近況を報告した際に要望も聞いている。3カ月毎に担当者が請求書と一緒に手紙を出し、利用者の様子を伝えているので、家族も安心である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・会議等で提案を聞く機会があり、その都度、介護や業務に関する意見を反映している。	毎月行われる会議は白熱し、2時間近く実施される。カンファレンスの記録からも、職員から出た利用者に対する支援の意見が実行され、更に検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・休みの希望や有給休暇は概ね思い通りに取得できている。・他の職員の事だが、ある職員の家族が体調不良時に、休暇取得が困難であったのをみかけた。・リフレッシュ休暇がある。・働きやすい職場だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年に1回は職員が研修に参加し、会議にて報告し、知識の共有化を図っている。・研修に参加する機会を設けて頂き、個々の関心ある研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設との交流はほとんどない。・意見交換の場があればうれしい。・研修や会議で交流はあったが継続はできていない。・機会があれば交流したい。・職員個人のレベルでの交流も必要であると考えている。・以前他の職員と比較評価されたので、他施設との交流はしたくない。・隣接する小規模多機能型事業所とは年数回交流がある。・利用者様の対応などについて色々な意見が知りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者様の要望に答えられるように努力している。しっかりコミュニケーションをとり、ニーズを読み取れるようにしている。・ご本人を良く観察し、要望を知りえるようにしている。・初期に帰宅願望が強い方には、より多く外出機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族情報を把握し、職員間で情報を共有し、ニーズに応えられるように努めている。・面会時に近況報告し、写真などを見て頂き、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人とご家族の情報からご本人にあった支援が提供できるようにしている。・ご本人とご家族と話し合い、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活リハビリや散歩など利用者様個々に合ったことをして頂き、共同生活をしながら信頼関係を築けるように努めている。・関係を深める努力を日々実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には近況報告し、写真を見ていただき、3か月に1回は手紙をしたため、コミュニケーションをとっている。・誕生会を行い、ご家族には強く参加を要望し、共にお祝いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・手紙や電話の要望があればその都度対応できるようにしている。・友人の方たちの面会や電話を取り次いでいる。	家族や親戚の面会は多く、誕生日会には、家族に参加を依頼し、一緒に利用者の好きな料理とケーキで祝う。毎週末に外泊し、お気に入りの週刊誌を購入する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う方同士が近くに座るように配慮している。・気分良く過ごして頂くようにしている。・孤立しているような方がいたら、しゃべったら、職員が会話をするなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了しても、要望があれば相談に応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・思いや意向の把握に努め、可能なことは実現できるようにしている。・困難な場合は、個々に対応したり、周りの職員を見習う。	帰宅願望の利用者が「帰りたい」と言えば、職員と一緒にバス停でバスを待ったり、月に1度は自宅で1時間位過ごしてもらっている。「家族に今すぐ電話して」と言われれば、仕事の中の為、電話が繋がらないと解っていても直ぐに電話をし、思いを尊重したケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に情報を把握し、職員で共有している。・家族、本人様の会話の中から情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のバイタルチェックなどで体調に気を配り、他の職員と申し送りなどを通して情報共有に努めている。・長時間居室におられる方には声かけし、状況に応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月、ケアカンファレンスを実施し、その都度個々の利用者様に対応したケアを提供している。	毎月のカンファレンスは職員全員が参加し、繰り返し個人ケアについて話し合いが行われる。ケアプランは介護記録と職員の意見を取り入れ、家族からは直接電話で希望を聞き、計画している。年3回実施するモニタリングもこまかく実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録に記入し、申し送りを通して、職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・食事形態の変更など、利用者様ひとりひとりに応じたサービス提供をしている。・病院への通院、往診などの支援を行っている。・ご本人の希望による、一時帰宅の手伝いを行っている。・利用者様に応じた部屋の模様替えを行っている。・適切な室内履きを個々に応じて選択している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事(小中学校の運動会や学芸祭やオープンスクール、地域のサロン、各種展覧会などetc...)に参加しており、買物へも利用者様と一緒にしている。 ・学生のボランティアを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・連携の取れた医療機関にて、通院と往診を行い、治療や症状の改善などを旨し、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の受診は職員が対応している。一部の協力医は、毎月の訪問診療と急変時の往診対応が可能で、医療面は安心である。外科の医師は、水が溜まった膝の処置に来てくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職との情報交換を行い、受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・近隣の医療機関とは折に触れ連絡を取り合っている。・医療機関とは入退院時にカンファレンスを行い、連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族の意向を伺い、看取り介護を行ったケースがある。・看取り介護を行っている時は、ホーム内のカンファレンスでも議題として挙げ、職員間で共通認識を持って取り組むようにしている。	看取りの希望があれば行う体制であるが、医師から入院した方が良いと言われるケースが多い。昨年は2人看取りをしている。終末期は家族が仕事の都合等でなかなか対応できない部分を、理事長と施設長がフォローし、職員の不安も軽減された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・消防機関の行う救急救命講習をほぼ全職員が受講した。・緊急時の個人情報カードを作成し、連絡対応は迅速にできている。 ・研修等で学んだが、機会があれば、もっと学びたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練を利用者様全員と職員と一緒に参加し、行っている。・消防署の職員にも参加してもらうこともある。・スプリンクラーを設置している。	全職員が協力して避難訓練が出来、無事に利用者を誘導する事が一番重要と考え、日中の避難訓練を充実させている。全職員が確実に避難訓練を習得出来てから、夜間想定避難訓練を実施したいと考えている。	全職員が避難訓練のメインを実施してから夜間想定避難訓練を実施する予定だが、早めの夜間想定の実現に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・敬語を使って、利用者様が不快にならないような声かけをしている。・優しい口調を心掛けていますが、難聴の方には大声で言うので、他の方に聞こえることがある。・筆談が良いのではと思う。・いつも気を付けて対応しているが、プライドを損ねることもある。	事業所は利用者の事を「お客様」と呼ぶように統一し、利用者の事を大切に思う気持ちを言葉でも表している。ある難聴の利用者には、話しかける時に声が大きくなると他者に聞こえてしまうので、筆談にて会話を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定できる利用者様は意向に沿っているが、自己決定ができない方には、どの範囲まで実行できるか職員が判断したり、理解できるようにしている。・職員不足の時は出来ないこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・集団生活のため、食事や入浴など一定の規律の中で支援している。・集団生活のため希望に添えなこともある(食事や入浴)。・体調に合わせて、日中はゆっくり過ごしていただけるようにしている。・自立している利用者様はその方のペースで過ごされているが、そうでない方は職員が行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・女性は整髪、洗顔、身だしなみに気を配り、男性は毎朝髭を剃り、外出時には帽子、スカーフなどを着用している。・自分で服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・雑誌などを見てメニューを伺うことがある。・食材購入から食事作り、後片付けまで、毎日利用者様と一緒にいる。・食事作りを通して、作る楽しさと、食べる喜びを提供している。・感謝の気持ちを持ちながら食事作りを一緒にお願している。	「完全手作り」をモットーにしており、利用者がスーパーで食材を吟味するところから始まり、下ごしらえから後片付けも手伝ってもらう。食事代は低価格で設定しているが、内容は豪勢である。職員と利用者は必ず一緒に食事を取る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・特に水分補給(水分摂取量)に気をつけている。・水分不足にならないように気をつけている。・利用者様の体調、体重をもとに管理している。・10時、15時のお茶の時間以外にも、入浴後や散歩後などに折を見て水分を提供している。・その方に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・液体歯磨き剤を使用し、夕食後には義歯を洗浄剤を使って消毒している。・一人一人に対応した口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表に基づいて、定期的に個々に合わせた声かけと、誘導を実施している。 ・一人一人の排泄パターンに合わせている。	感染症対策とリハビリを兼ね、居室に備え付けられたトイレへ誘導している。全居室のトイレには背もたれが設置してある。背もたれがある事で、前傾し前に体重が乗ることで腹圧がかかりやすく、尿や便が出やすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝昼の食後にGH特製ヨーグルトを提供している。さらに、便秘気味の方には、GH特製プルーンジャムを追加して提供している。 ・散歩や体操を行い、排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・時間は希望に沿うことは困難である(特に早朝、夕方から夜間)。・体調に留意して、個々に希望される、湯の温度、入浴剤の使用などを支援している。・個々に応じた希望にはそえていない。職員の都合が多い。	脱衣場と浴室が同じ温度になる様、風呂ふたを開けた状態で温かい風を脱衣場に送る。入浴拒否の利用者の為には、浴室にマットを敷き、椅子の座面と背もたれにタオルを置き、納得した上で入浴をしよう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個室の温度に気をくばっている。・寝具はチェック表を使用し、定期的に干したり、洗ったりしている。・散歩や体操などで、夜間の安眠に繋がるように支援している。・日中できるだけ起きて、目を開けていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服用薬一覧表を個人ファイルに保管している。・服用薬の変更があれば記録や申し送り、周知している。・受診や往診の度に医師や薬剤師と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・気分転換には、行事への参加、買物、散歩、ドライブがある。・楽しみとしては、歌、家族の面会ではないか。・時々職員と1対1で出かけて、外で食事などしている。・調理、掃除、洗濯などお願いし、感謝の意を伝えることで、働く喜びを感じていただけるようにしている。・散歩や買い物に対して、拒否的な利用者様もいらっしゃるので、メニューを増やしていきたいと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩は毎日行っている(個人別チェック表あり)。・ウッドデッキのベランダにて日光浴やティータイムを提供している。・市内の行事へ参加している。・ご家族と外出される方もいる。・ピクニックや花見や花火大会などは全員参加で行っている。・行楽などは車イスの方が増えたので、移動が難しくなっている。	毎日散歩に行き、チェック表にも記録して、利用者の状況を個々に把握し、今後の対策に繋げている。さらに、小中学校のオープンスクールや運動会の見学、笠岡地区のイベントや花火大会等に出掛け、地域との交流を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族から現金を預かっており、事業所で管理している。・必要なものは一緒に買い物へ行ったり、代理で購入している。・現在いらっしゃる利用者様は現金管理できない方である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者様への手紙やハガキはご本人へ渡している。・手紙を書きたい希望があれば対応できる。・電話希望の利用者様には対応している。・会話のやり取りができるかは不明である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎日、共有空間と居室とトイレは掃除している。・テレビを視聴される時はゆったりとしたソファで見て頂いている。・手作りの作品の展示や生け花を飾っている。・照明器具や電球を部屋によって変えて、明るさや色見の工夫をしている。・のれんを季節により変えて季節感を出している。	玄関には利用者の家族が活けた生け花が来訪者を出迎えてくれる。室内に入ると、中学生が色紙に書いた利用者の似顔絵、時宜にかなった四字熟語が書かれた手作りカレンダーが飾られている。広い作りの廊下を活かし、日々体力維持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓やソファでの席順は、その都度配慮している。・共有空間では音楽を流して、リラックスして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの物を持ち込んでいただいている。・ご家族やペットの写真、誕生日に職員が送った色紙などが飾られている。・テレビを持ち込まれ、部屋でご覧になっている。	利用者直筆の表札には季節の飾りと担当者の名前・顔写真が貼られている。利用者が寂しい思いをしない様、面会の度に家族写真を壁に貼って帰る家族もいる。強い明りを嫌がる利用者の居室には、電気をマジックで塗り、明りを抑える工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレと洗面は各個室に完備している。・転倒防止のため、夜間はセンサーライトを設置し、ベッドの配置も細かく変更し、床に衝撃吸収のカーペットを用意している。・利用者様が安全かつ自立した生活ができるように工夫している。・各個室のドアの横に利用者様直筆の表札を掲示している。		